

# 自治大卒業生の声

## 自治大学校卒業生（第1部課程第138期）

福島県 渡邊 孝大

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

### はじめに

8月10日に自治大学校での研修を終えて2か月が経過した。同期との近況報告や以前と変わらないやり取りが続き、懐かしさはまだ感じられない。

一方で、同期の地元ニュースに敏感になり、各地での皆の活躍を想像するたびに、私自身もこの研修での学びを活かさなければと、身が引き締まる。

### 1. 研修受講にあたり

研修初日のオリエンテーション。『研修を通じて、研修生との横のつながりを深めてネットワークを広げてください。それが皆さんの財産になる。』という教務部長の言葉がとても印象に残っている。研修前も自治大OBからは同様の言葉を聞いてきたが、勉強漬けの日々が待ち構えているものと思っていたので、教務部長のこの言葉はいい意味で期待を裏切られたし、研修が終了した今、この言葉をとても痛感している。

### 2. 基本法制A 第8期

法学部出身でもない私にとっては、憲法、行政法、民法、地方自治制度、地方公務員法、財政学のすべてが初めて聞くことばかりの授業であり、内容以前に法律用語についていくだけで精一杯であった。

また、超一流の講師陣は進め方もそれぞれ独特で、一つの教科書をひたすら読み進める講義では、「ここ大切」というところに下線を引きまくった結果、教科書が真っ黄

色になり、教科書やテキスト・副教材・レジュメ・六法など7冊もの教材を駆使する講義では、机の上に教材をどう配置するか試行錯誤の毎日だった。

約1か月のカリキュラムも半分を経過すると徐々に慣れてもくるが、それでも3コマ連続の授業はとてつらい。3コマ×2科目の6コマを終えた時の達成感は、山登りに似た精神状態であった。

それを乗り越えた末に待ち構えている効果測定は、この1か月の集大成である。フロアメンバーとの勉強会は、重要なところをチェックしたり、問題を出し合ったりしてまさに大学生のテスト前のような状態であった。

この基本法制を通しては、「人権」という言葉が特に印象に残っている。これまで前例やマニュアルに頼りがちになっていたが、改めて行政の根幹に立ち返る機会をいただけたと思う。

### 3. 第1部課程 第138期

効果測定後のBBQ 打上げでは過酷なテスト勉強からの解放感に浸り、二日酔いをボイストレーニングという名の声出し訓練で吹き飛ばし、一息つく間もなく第1部課程に突入した。

先輩研修生からは「テストはないので、少しは時間に余裕が出てくる」と言われていたが、毎日の提出物リストにその期待は打ち砕かれる。ほぼ毎日、各演習の事前準備物や演習後の成果物提出があり、演習時間内に終わらなければ、延長戦となった。

各演習は1チーム3～4名で編成されるが、チームの中での自身の役割を見極める力を学ぶ機会となった。どの演習において

も概ね ①アイデア・情報収集、②まとめ、③資料作成 が必要な役割となるが、38 人もいれば三者三様。チームの中で自分の役割を見極めることが、チームの力を最大限に発揮することに繋がったと思う。

そして各演習の集大成となるのが、政策立案演習である。我々のチームは最初から最後まで「作ってはやり直し」を続けていたが、追い詰められた時のパワーが凄かった。

いい感じで進めていたつもりでも教官にバッサリと切られた時のショックは大きかったが、それを乗り越える度にメンバーの結束は強くなっていった。

終盤では、夜に送った報告書が翌朝には真っ赤に添削されて返ってくるという田口先生の熱いご指導に何度も心が折れかけたが、メンバーで助け合い、粘り強く喰らいつき、無事報告書を完成させることができた。

最後の発表会で褒められることはなかったものの、実地調査で実際に見聞きし、感じた課題に対して、最後までメンバー全員で政策を考え、やり切ったからこそ、最終の振り返りでのメンバーからのメッセージは、この研修を通じて一番目頭が熱くなった言葉であった。

#### 4. 寮生活

このように書くと、つらく大変な研修生活と思われるかもしれないが、講義以上に寮生活も充実した毎日であった。講義終了後には、談話室で各地から送られてきた地酒や名産品を皆で楽しんだ。

また、朝は7時からグラウンドでサッカーや野球で汗を流す、というとても健康的な生活を送り、はじめは久々の運動でボールのないところで転んでいたおじさん達も卒業の頃には少し引き締まった感じになっていった。

フロア対抗のスポーツ大会や2部課程との綱引き対決、3部課程の先輩方との野球

対決は特に盛り上がったイベントで、課程を越えて多くの研修生と繋がる機会となった。



お揃いで作った  
ポロシャツ



#### おわりに

濃密な4ヶ月が凝縮された代表謝辞に笑って卒業式を終えると、同期との別れの感傷に浸る間もなく部屋を片付け退寮したが自宅で迎えた翌朝、一気に寂しさがこみあげてきた。

朝から晩まで一緒に過ごした仲間との別れがこんなにつらいものとは思わなかったが、裏を返すと、日本のどこかで再会できる仲間がいて、この先もずっと付き合っていける同期ができたということだ。

基本法制での知識、1部課程での実践力に加え、切磋琢磨しあう全国の同期とのつながりが一生の財産となり、自分自身の視野が大きく広がる幸せな時間であった。これからも多くの同僚や後輩にこのような経験をしてもらいたいと思う。

最後に、コロナ禍においてもこのような場を提供いただきました自治大学校の皆様と多くの講師の方々、また快く送り出してくれた職場、支えてくれた家族に感謝を申し上げます。ありがとうございました。